

20140630

## **2014年6月30日　日本テレビ 定例記者会見**

### **《 要旨 》**

#### **1. 視聴率動向と編成戦略**

##### **・視聴率データ**

先週（6月23日週）の視聴率では、8週連続となる三冠王を獲得した。年間で16回目、年度では11回目となる。年間視聴率では、ちょうど1年の半分終わったところであるが、全日、プライムタイム、ゴールデンタイムとも好調である。

特に喜ばしいのは、現時点で年間、年度共に、昨年同期の視聴率を上回っていることである。自分たちの前年のレベルを超えていいという思いで、各番組制作部門が日々努力を重ねている成果が少しづつ出てきているのだと思う。

昨年は、年間視聴率で一冠、年度で二冠に留まった。今年は、何としても、年間、年度を通して三冠王を奪還したい。

##### **・編成戦略**

タイムテーブル上のレギュラーパン組を大事にし、そして強化していくという極めて基本的なことを実行していく。それぞれの番組が新しいヒットコーナーを生むべく工夫をし、新しい企画を立ち上げ、イノベーションを行うという、この基本をしっかりとやっていく。さらには、大型の特別番組「THE MUSIC DAY 音楽のちから」、「24時間テレビ 愛は地球を救う」なども成功させる。

##### **・サッカーW杯**

6月20日（金）「日本×ギリシャ」は、キックオフが午前7時であり、前半が終わったハーフタイムでかなり視聴率が下がった。この原因是、ブラジルとの時差が12時間程度あり、日本における通勤時間と重なったことが一番大きいと見ている。

## **2. 営業状況**

### **・放送収入**

5月のタイムセールスは、ほぼ前年並みであり、スポットセールスは前年をかなり上回った。4月は消費税増税の影響でエリア全体が前年に届かないという状況であったが、5月は活況を呈し、特に当社はエリアの前年比を大きく上回るという好調な結果となった。6月のスポットも前年を上回る状況であり、第1四半期全体でも前年を少し上回る見通しである。

### **・放送外収入**

映画では、5月30日に公開した幹事作品「MONSTARZ (モンスターズ)」が、1か月経過し、観客動員数が66万人とまずまずの状況である。

4月19日から公開している「名探偵コナン 異次元の狙撃手」は、2か月以上経つが、まだ300館近い全国の映画館で上映されており、現時点での観客動員数330万人の大ヒットとなっている。

美術展は、「こども展 名画にみるこどもと画家の絆」が六本木の森アーツセンターギャラリーで開催されていたが、6月29日に終了した。非常に良い作品が集まっていた。

## **3. その他**

### **・Hulu**

4月から「Hulu」の国内事業を傘下に収めて事業展開を行っており、会員獲得については、想定通りに推移している。有料会員を増やしていくためには、コンテンツを充実させ、合わせてPRを強化するという2点がポイントだと考えている。

コンテンツの充実の一例としては、人気アーティスト“ゆず”の専門チャンネル「YUZU CHANNEL」を開設した。“ゆず”的コンサートツアーやカメラが密着し、リハーサル等の貴重な映像を配信しているが、ファンの方々には魅力的なコンテンツで、このチャンネルが見たいということで会員になってくださった方も多い。

また、PRの強化という点では、7月2日から「Hulu」のコンテンツを紹介するミニ番組の放送を地上波で開始する。多くの素晴らしいコンテンツがラインナップされている「Hulu」を積極的にPRしていく。

権利処理の問題等もあるが、魅力的で、強力な当社のコンテンツは出来るだけたくさん出していく。他局についても、それぞれ事情もあると思われるが、これまで以上にご提供いただけるようお願いをしていく。

## ・五輪放送権料

五輪の放送権料が、大会を数えるごとに高騰している状況は、テレビ局の経営者としては非常に頭が痛い。採算については、現時点ではなんとも言えないが、これまでの経験からすると、放送権料を賄えるかどうか、決して楽観視できない。

しかし、五輪は国民の多くが注視し、期待している祭典であり、NHK、民放各局とも五輪放送の取り組みは、採算の見通しだけで決めているわけではない。これから景気動向にも期待をしつつ、広告会社と共に収支が整うように努力していく。

## ・BPO「インタビュー、顔出し原則に」

BPO から、テレビ界全体への指摘として、“顔出しインタビューは原則”という委員長談話が出されたが、報道等において出来るだけ実名で、インタビューに答えてくださる方が分かる形で伝えるということは、当社の持つ報道原則の一つでもある。様々な事情で一部出来ないものもあるが、今回の指摘を真摯に受け止め、からの番組作りに生かす努力をしていく。

(了)